

年頭所感

中澤 靖夫

公益社団法人日本診療放射線技師会 会長



平成30年の新春を迎え、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

平素は本会の事業の推進につきまして、ご理解とご協力を頂き深く感謝を申し上げます。本年も昨年同様にご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

初春を迎え、会員の皆さま方におかれましては、どのような夢と希望と目標を抱かれたことでしょうか。昨年は、第33回日本診療放射線技師学術大会、8地域における放射線医療技術学術大会、第11回JART・JSRT合同学術セミナー、第78回定時総会などに出席し、本会の事業方針を伝えご理解を頂いてきたところです。

世界の潮流について見てみると、イタリア・タオルミーナで開催されたG7では、外交・安全保障政策として北朝鮮、テロ・暴力過激主義、中東情勢（シリア・リビア・イランなど）、海洋安全保障（東シナ海・南シナ海）などの問題が議論された。特にわが国としては、北朝鮮からの度重なるミサイル発射は断じて許すことのできない喫緊の課題であり、日本国を守るためには、積極的な平和外交と、40年以上北朝鮮に拉致されている被害者の奪還に向けた国民的取り組みが必要である。

科学技術の進歩は人類に計り知れない貢献をしている。

私たちが医療に使用している엑스線は、ヴェルツブルク大学物理学研究所長であったWilhelm Conrad Röntgenによって1895年11月8日に発見され、人類の健康と繁栄のために利用されてきた。その発見の功績により、Röntgen教授は1901年に第1回ノーベル賞（物理学）を受賞した。2017年のノーベル生理学・医学賞は、サーカディアン・リズムを生み出す遺伝子とそのメカニズムを発見した米ブランダイス大学のホール（Jeffrey C. Hall）博士とロスバッシュ（Michael Rosbash）博士、そしてロックフェラー大学のヤング（Michael W. Young）博士の3氏が受賞した。人間の体は、誰もが等しく24時間のリズムで変化している。朝になるとそれぞれの活動に合わせて目覚め食事を取り職場で仕事をする。同様に、それぞれの活動に合わせて仕事を終了し、夕食を食べて就眠する。この一連の活動の中で、朝が来ると血圧が上がり、昼には血中のヘモグロビン濃度が高くなり、夕方には体温が上がる。こうした規則性のある体内変化は「体内時計」といわれたりもする。3氏の研究は、人体の活動を律するリズムを、遺伝子レベルで解き明かす道を開いたことが受賞につながった。

2017年5月にフランスの大統領選挙が行われ、エマニュエル・マクロン氏が当選した。当時39歳の元経済・産業・デジタル大臣である。また9月にドイツ連邦議会選挙が行われ、メルケル首相の続投が確実となった。たとえ大統領や首相が交代したとしても、世界平和のために尽力してほしいと願っている。国連に参加する全ての国の指導者は、地球が抱えているさまざまな問題に対して「地球は一つ」「人類は一つ」という視点から、人種差別をなくし、平和五原則である領土・主権の相互尊重、相互不可侵、相互内政不干渉、平等互惠、平和共存の下、各国がそれぞれの役割を担う中で世界平和の醸成に努めていただきたいと願う。

AACRT2017が香港で開催され、5カ国による「Radiation Protection and Monitoring」のシンポジウムが開催された。世界各国における診断参考レベルの設定や、診療放射線技師による放射線防護活動が問われている。2015年3月に診療放射線技師法の一部が改正された。新たな業務拡大に伴い全ての診療放射線技師の方々に、本会が主催する統一講習会を受講するよう勧めている。柔道整復師の団体が第193回通常国会に「放射線業務ができる内容の法律改正案」を提出した。本会は断固とした反対運動を行っているが、他団体にスキを与えないためにも全ての診療放射線技師の受講をお願いする。2020年の新卒からは新しい診療放射線技師が医療界に仲間入りする。次期診療放射線技師法の改正では、新しい診療放射線技師と統一講習会修了者が優先対象となる。既卒の方々は、古い診療放射線技師として取り残されないよう早めの受講をお勧めする。

本会は、真のチーム医療を推進するために、患者安全を第一優先とし、医療安全の視点からさまざまな生涯教育に取り組んでいます。そして「国民と共にチーム医療を推進しよう」をスローガンに、医療者と協働し、質の高い医療技術を提供する診療放射線技師を継続的に支援し、社会的責任を遂行する所存です。皆さま方のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。